55 矢作川中流域のオオカナダモ群落から発生した秋季、冬季のユスリカ類

○近藤繁生（愛知医大）・間野隆裕（豊田市矢作川研究所）・山本 優（環境科学K.K）

Chironomidae emerged from *Egeria densa* community in the middle reaches of the Yahagi River, Aichi during autumn and winter seasons

Kondo, S., Mano, T., Yamamoto, M.

矢作川は、中央アルプス南端に源を発し、愛知県西三河地方を縦断して三河湾に注ぐ、幹川流路延長117 km、流域面積1,830km²の中規模一級河川である。矢作川におけるユスリカの情報は乏しく、また近年、中流域（42～44 km）にオオカナダモ *Egeria densa* の繁殖が見られ、現在では大きな群落が砂地を中心にパッチ状に拡大しつつある。オオカナダモは南米産の帰化種で繁殖力が旺盛であり、冬でも枯れないことから、生態系に及ぼす影響が懸念される。そこで、ユスリカ類の生息場所としてどのような役割を果たしているのかを調査する目的で、昨年10月より本年2月まで、オオカナダモを採取して、それらに付着しているユスリカ類を室温で羽化させ、種数、個体数を調べた。10月に得られたユスリカ類の構成では、エリユスリカが最も多く、全体の50%以上を占めた。おもなグループはツヤユスリカ属、コナユスリカ属、ヌカユスリカ属で、次にヒゲユスリカ族（30%）、ユスリカ族（＜10%）と続いた。

56 都市環境下でのチャイロスズメバチの営巣活動について

高橋健一（北海道衛研・衛生動物）

Nest colonization of *Vespa dybousky* in urban area

Takahashi, K.

チャイロスズメバチはケブカスズメバチやモンズメバチに一時的社会寄生をすることが知られている。札幌市内で駆除されたチャイロの件数は、1989年から'93年の5年間では1例のみであった。ところが、'94年から'98年の間は7例、そして'99年から2002年は4年間で15例に達した。このようなチャイロの営巣事例の増加は、本種の発生環境下でのケブカの増加が影響しているのではないかと考えられる。一方、2003年7月に札幌市南区の住宅の軒先で、ケブカに寄生したチャイロの引越巣を観察した。その結果、初期の段階で引越巣内にケブカの幼虫が確認され、ケブカのワーカーによる産卵が行われたことが示唆された。このことは、引越の過程でチャイロ女王が不在の期間中に、一時的にケブカのワーカーに対する産卵抑制が解除され、ケブカがチャイロの寄生を受けた以降にもコロニーとして産卵活動が行えた事例と考えられた。